

「シベリアンハスキーのプー」

今日はペットの話をしたいと思います。

「シベリアンハスキー」という犬の種類を知っている人はいますか？大きな犬で体重が 25 kg位あります。この犬はもともと北極など氷や雪が多い寒い地域で暮らし、雪の中でも眠ることができる特技があります。よくテレビなどでそりを引く映像を見たことがありませんか？実は副校長先生の家にこの「シベリアンハスキー」が暮らしています。名前をプーといいます。本音を言うと副校長先生はあまり犬が好きではありません。

では、何故プーが副校長先生の家にいるのでしょうか？

プーは元々近くのゴルフ場で飼われていたのですが、理由があって、もう飼えないことになりました。それを知った先生の家族が「このままでは殺されてしまうので、我家で引き取りたい」と言い出し、飼うことになりました。しかし、実際に飼うとなると 1 時間以上の散歩を 1 日 2 回行かなければならぬし、餌もたくさん食べるし、ウンチの処理もあるし、病気をすれば病院にも行くなど、プーに振り回されることも多くなり、なかなか大変なのです。

去年よりコロナ禍でペットを飼い始める人が増えているそうです。どうしてでしょうか？やはり家で一人ぼっちの時間が多くなり、癒しを求めているのでしょうか？

ところがいざ飼い始めてみるとプーのように楽しいことだけでなく、様々な面倒なことも出てきます。それが嫌になってペットを捨てたり処分する人も増えているそうです。ちょっと勝手だと思いませんか？ペットは生き物でおやつやゲームなどのモノとは違います。簡単に捨てたり処分するということは殺すことと同じことなのです。

昨年来、コロナが原因で 17800 人が亡くなり、連日死者数がテレビや新聞で発表されることもあり、どうもこの 2 年間、「命」ということが軽く扱われるようになってきたように思います。みんなの命は一人一人かけがえのないものです。周りの人の命もそうです。又、動物の命も同じです。すべての命を大切にしていきたいですね。

これで副校長先生のお話を終わります。